

実践研究発表会

職場内研修の一環として、昨年度より日ごろの支援や業務に関する実践研究発表会を行っており、今年度もリモートではありますが開催いたしました。

各事業所・エリアから15件の実践研究がエントリーされ、研修委員会を中心に採点評価を行い、上位の研究には発表をして頂きました。昨年度よりもどの研究ともクオリティーが上がっており、レベルの高い研究発表となりました。

日々の支援の成果や、業務改善を事業所間で共有する良い機会となっております。

法人事務局リーダー 光 森 勇 人



優秀者には発表してもらいました。

陶芸教室をしました！（麦わらぼうし）

陶芸の粘土を初めて触る児童もいましたが、子ども達の個性が沢山でた作品が出来ました！「また作りたい！」「次は違うの作りたい！」など、意欲が出た良い陶芸教室でした！



陶芸教室①



陶芸教室②

つむぎサテライト事業所開設

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年はコロナ禍の中で行動制限を余儀なくされ、様々な感情が揺れ動いた年となりましたが、新たな仲間を迎え大きく飛躍できた年でもありました。

2022年におきましても、利用者さんと職員がともに成長を実感できる1年でありたいと思いますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年は1月に佐土原町今坂にて、つむぎサテライト事業所を開設する運びとなり、1月8日には厳かに開所式を執り行うことが出来ました。

また、佐土原町での事業所開設に伴い、ウエルコート佐土原での活動が始まります。新たな地域での活動となるため、不安も多くありますが、地域に対して少しでも早く馴染め、貢献ができるように利用者さんと職員が協力して活動に励んでいければと思いますので、応援をよろしく申し上げます。

就労継続支援B型事業所つむぎ サブリーダー 大 山 貴 司



開所式の模様①



開所式の模様②

明けましておめでとうございます！

2022年がスタートしましたが、いかがお過ごしでしょうか？

2020年、2021年と新型コロナウイルスの影響により社会は大きな影響を受け、オンライン化が進むなど様々な環境が変わりました。それと同時に、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉も色々な所で話題になっています。これは、障がいを持たれている方にも関係ない話ではなく、例えば、ホームページのアクセシビリティ（アクセスのしやすさ、情報やサービスの利用のしやすさ）において、視覚障がいを持っている方に内容をどうやって伝えるかということにも繋がります（デジタル庁のアクセシビリティ推進チーム3人のうち2人は視覚障がいを持った方です）。また、役所などに提出しなければいけない書類がある時、原本を直接受け取りに行くしか方法がないのか、原本をホームページからプリントアウトやダウンロードできる方法もあるのかで行動が変わってきます。社会は、便利になり、以前の環境とは変わっています。時代が変われば人々の嗜好も変化します。また、年齢を重ねればニーズも変化することが多いです。過去に縛られず、そこを汲み取り対応しなければ、息苦しさを感じるかもしれません。だからこそ、そうならないように私たち福祉従事者は利用者に寄り添う必要があると思います。

それでは、変化を汲み取りどう寄り添うのか？それは多様性の尊重だと考えます。数年前にはダイバーシティという言葉が注目され、昨年末のNHK紅白歌合戦のテーマも『カラフル』と銘打ち多様性にスポットが当たりました。近年はLGBTQIA+（プラス）（セクシャルマイノリティ）への注目度も増えています。そんな多様性を、私は、一つのことにと縛られず複数の中から選択できることだと考えています。

利用者の方々の選択肢を増やし、快適な環境で過ごせる選択ができるよう、今後もお手伝いしていきたいと思います。

多様性が尊重されることで2022年が誰にとっても良い年になるよう、微力かもしれませんが私ものがんばっていききたいと思います。

土曜学校メッセージ

金垣基牧師（宮崎めぐみ教会）、印慶子牧師（宮崎柳丸キリスト教会）
海老原直宏（宮崎北聖書キリスト教会）、山口英希牧師（宮崎清水協会）
荒平大輔（宮崎北聖書キリスト教会）

寄贈品・寄附金・ボランティアありがとうございます。(10月～12月)

宮王丸郵便局様、櫻木理様、坂本匡久様、宇留島ミカ様、宮崎マルイプロパン様、幸野吉子様、きずな歯科様、コスモ設計様、横山時義様、都城点字点訳・音訳友の会様、綾社協様、山田喜代美様、ケアサービス田上様、中村満男様、原田貴士様、釈迦郡総様、甲斐輝彦様

編集 後記

年が改まり、厳しい寒さの中にも清々しさが感じられる季節となりました。昨年もコロナの影響に大きく左右され、普段の生活も制限の多い日々を過ごして参りました。今年は少しでも一人ひとりが自分らしくこれまでの生活の日々に戻れることを願うばかりであります。最近になり、また新種のコロナ感染症が増えてきております。これまで以上に感染防止には気を配りながら、楽しく安心した生活が送れるように今後とも支援していきたいと思っております。

広報委員 保利 翼